



にじ

vol.18

JA北海道厚生連
遠軽厚生病院
遠軽町大通北3丁目
tel (0158) 42-4101

平成 30 年 10 月

Rainbow

院長就任挨拶

JA北海道厚生連 遠軽厚生病院
院長 稲葉 聡



この度、矢吹前院長の退任に伴い8月1日付で院長に就任いたしました。この場をお借りして一言ご挨拶を申し上げます。

私自身、平成9年に赴任して以来、22年目の夏を迎えました。生まれ故郷の釧路で育った期間を超え、もともと根付いた土地となりました。すっかり遠軽人になったと自覚しています。20年以上も同じ土地で診療していると、患者さんの高齢化やこの地域の広域性を肌で感じます。愛知県に匹敵する広さの遠紋地区で、医療の中心として我が遠軽厚生病院が果たすべく役割は大きく、

身の引き締まる思いです。しかしながら、当院を取り巻く環境はまだまだ厳しく、医師確保には難渋しているのが現状です。

平成22年の脳神経外科撤退に始まり、各科医師の減員等が続き病院機能が縮小していることは否めません。とりわけ平成27年秋の産婦人科撤退は衝撃的でした。それでも明るい話題もあります。翌年8月には産科が復活し、実に1年1か月ぶりに赤ちゃんの産声が院内に響きわたりました。その後も順調に産科は行われ、昨年9月からは産科医師2名体制となりました。2名だった小児科医師も今年度から4名となり充実した診療体制になりました。循環器科医師1名も増員となりました。また近年増加傾向にある疾患に対応すべく、呼吸器外来や乳腺外来の充実も図っています。今後診療体制の維持・向上に努めていきたいと思っています。

当院への救急搬送は年間1000

件を超えます。人口減少が顕著なものにもかかわらず救急搬送件数は減少せず、これも人口の高齢化を反映しているのかもしれない。救急車の受け入れは地域を担う病院の大きな使命の一つです。現状でも当院での専門的治療が困難な場合は北見などへの再搬送を行っていますが、これ以上病院機能が低下すると救急車の受け入れそのものが不可能になってしまうかもしれません。それはこの地域の医療崩壊を意味します。それだけは避けなければなりません。救急体制の維持は当院の責務であり、今後もさらなる努力を続けて参りますが、住民の皆様にも現状をご理解いただき、他院への再搬送等にご協力をお願い申し上げます。

私たちは、このオホーツクの地に生きる人々の健康を守り、『皆さまから最も信頼され、選ばれる病院』をめざします。これが、遠軽厚生病院の理念です。理念を実現するには苦しい現状ではありますが、総勢400名の職員一丸となって、理念に一步でも近づけるよう日々の診療に邁進していく所存です。皆様方には、これからも忌憚のないご意見をいただきつつ、温かく見守って下さるようお願い申し上げます。院長就任のご挨拶とさせていただきます。

小児科のご紹介

小児科

遠軽厚生病院小児科では地域センター病院として生まれただけの赤ちゃんから主に中学生までの内科的疾患の診療を行っております。また、健やかな成長の支えとなるべく、予防接種、子育て支援、心身の成長や取り巻く環境への提言・啓蒙活動に取り組み、関係機関とも連携を深めて行きたいと考えています。昨年度までは小児科医が減り続けてご不便をおかけしておりましたが、今年度より4人体制に復活し、午後診療の再開や出張医にお願いしていた健診業務をまかなうことができるようになりました。

外来

月々金の午前と月々木の

午後には一般診療を行っていません。金曜午後は赤ちゃんの健診のため一般外来診療は休診です。

必要に応じて外来で検査、点滴などを行います。状態によっては入院治療となります。特殊な病気や集中治療が必要な病気などは他科・他施設と連携し、時には転院となることもありま

す。また長期の管理や専門的な判断を必要とする内分泌代謝疾患、神経疾患、循環器疾患や遺伝疾患は、旭川医科大学の専門医による専門外来を行っています。

病棟

入院病棟は混合病棟ですが、小児科はプレイルームと病棟保育士を備えた一般

病床6床と新生児集中治療室2床で稼働しています。原則1日2回のカンファレンスと回診を行い診療方針を決めています。

時間外・休日の救急医療

基本的には全科当直医の対応となりますが、より高度な検査・医療を要すると判断された時には小児科当番医が呼び出しで対応しています。

今後も安心・安全な医療を提供できるよう日々精進を続け、遠紋地区を安心して子育てのできる故郷とするため尽力していきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

小児科外来診療表

2018年9月1日現在

	月	火	水	木	金	診療時間
午前	高瀬	三浦	高瀬	田中	高瀬	8:30-11:00 (8:00より受付)
午後	田中	田中 予防接種 検査	山本 予防接種 検査	三浦 予防接種 検査	予防接 種検査	月 13:30-15:30 (13:00より受付) 火水木 14:00-15:30 (13:45より受付)



診療部長 高瀬 雅史

内科のご紹介

診療部長 柳川 伸 幸

経 歴

6月1日より旭川厚生病院から当院に転勤となりました。内科の柳川です。簡単に私の経歴を書かせていただきます。私は平成4年に旭川医大を卒業後、まず岩内協会病院で一般内科の勉強をさせていただき、その後、札幌厚生病院で研修医として消化器内科全般を研修した後、手稲溪仁会病院消化器病センターで最先端の胆膵（胆嚢、胆管、膵臓）領域の研修と診断治療技術の習得を行い、旭川医大第三内科で基礎的な研究を行った後に、平成14年から15年余り、旭川厚生病院消化器科で胆膵領域を中心とした診療を行ってきました。この度、当院で内科の

診療を行うにあたり、今まで培ってきた胆膵領域疾患の内科的な診断と治療を中心として、内科全般の診療を行うことで地域の診療レベルの向上に貢献したいと思っております。

内科について

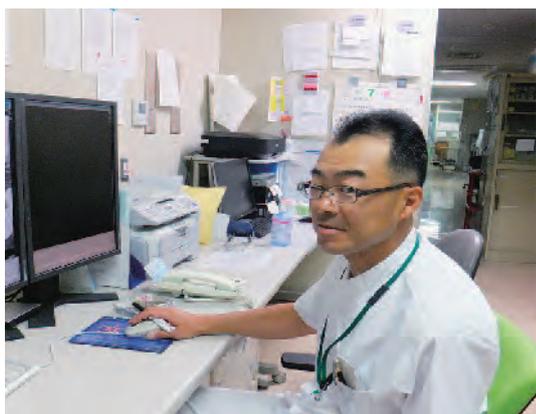
私が担当する当院の内科に関してではありますが、今まで長きにわたり当院の診療に貢献してきた、井上充貴内視鏡センター長をはじめ、総勢7名で内科診療を行っております。内科領域とは非常に多くの疾患の力バードを行わなければなりません。幸いにして、循環器領域に関して当院循環器科で心疾患を中心とした専門的な診療を行っていただ

ておりますが、その他の内科疾患の診療を行っているのが当科であります。当科のメンバーは全員が旭川医大内科学講座消化器・血液腫瘍制御内科学分野（第三内科）の出身でありますので、当科には消化管、肝臓、胆膵、血液領域に精通した医師が診療に従事していることから、遠軽町より大きな都市にある病院に比べても引けを取らないレベルの診療を行うことが可能であると断言できると思われます。さらに、出身教室から応援に来ていただける奥村勝利教授のご指導のもと、糖尿病をはじめ、その他の内科疾患の診療を行っております。

今後も消化器疾患、血液疾患を中心に適切で最先端

の医療を患者さんに提供できるよう、また、日々進歩する医学に遅れることのないよう努力を怠らず、遠軽地区の医療レベル向上に貢献していきたいと内科医師全員、身を引き締めて診療にあたっている毎日であります。

今後とも私を含め当院の内科医師をどうぞよろしくようお願い申し上げます。



本年度4月より赴任いたしました浅井と申します。

前任地は旭川医大の消化器外科で大腸癌、特に腹腔鏡（カメラを用いた傷の小さな手術）を中心とした手術を専門としておりました。大学におりますと遠方からの患者様が大勢いらっしゃいます。この遠紋地区も例外ではありませんでした。いつも思っていたのは遠軽で手術しても内容は同じだけど、通院、大変だなあとということでした。ご本人だけではなくご家族も通わなければなりません。至急のことが起きた場合や天候が悪いとなおさらなことです。癌という病気は手術

をして終わりとはならないことが多いのです。だからこそ治療するのであれば出来るだけ通院しやすい施設で治療を進められるのが一番と考えております。地域医療に従事する外科医師はある程度該当する癌腫に対して精通していなくてはなりません。

しかし、ひとりでどんな手術でも最高のレベルでできるブラックジャックや大門美智子のような外科医は残念ながら存在しません。当科では消化器（胃・大腸）外科の専門性は生かしつつ、食道・肝胆膵といった病気になる人の少ない疾患の手術に関しても旭川医大

の手術応援があり、乳癌についても定期的に乳癌専門医の外来があり札幌・旭川のレベルと同等もしくはそれ以上のクオリティーを持つて治療に当たれるものと思っております。

この遠紋地区の皆様から信頼される医療を提供できるように努力して参りますので宜しくお願いします。



病棟薬剤師のお仕事

専任薬剤師の配置

当院には3東病棟、3南病棟、4西病棟、4南病棟、5東病棟の5つの病棟があり、各病棟に1名の担当薬剤師を配置し、入院患者さんに対して、使用中のお薬のチェックをおこない、必要に応じて患者さんと直接お話しすることで、患者さん一人一人のお薬についての確認を行っています。

業務内容について

病棟薬剤師の主な仕事内容とは、入院患者さんの薬歴管理（薬学的管理）と服薬説明（服薬指導）を介して患者さんの薬物療法への理解を助け、また患者さん

から得られた情報を医師にフィードバックすることにより薬物療法を支援する業務を行っています。

具体的には、入院された患者さん又はご家族と面談を行い、持参薬・市販薬・健康食品やサプリメント等の内服薬や注射薬の飲み合わせについて、患者さんの疾患や症状、年齢・性別、体重・身長、腎臓・肝臓機能等の検査値など様々な状況から確認し、薬を適切に服用できるように、個々の患者さんに合わせた服薬説明をおこなっています。また、患者さんの体質やアレルギー歴、これまでの服薬記録などと服用中のお薬と照合し、副作用発現の早期発見に努めています。

患者さんとお話しした内容については、どのような服薬説明をしたのか、また患者さんからどのような薬や病気についての質問があったのか、記録に残します。退院後の生活もお薬を継続して飲むように、飲み方や注意事項の説明をおこないます。また、他の病院や調剤薬局に服用中のお薬の内容が分かるように、お薬手帳に記載しお渡します。

患者さんやご家族に薬物療法についてわかりやすく説明を行い、少しでも安心して治療に臨んでいただけるように心がけ、医師や看護師をはじめ、他の医療スタッフとの連携を実践しています。



健診センター

支や肺野にできたがん細胞の一部が痰とともに排出されることがあるため、その細胞を調べる喀痰細胞診検査を併せた結果を総合的に判定します。

肺がんはがん死亡率が高い(男性1位・女性2位)状況にあり、早期がんであれば5年生存率は70%以上と言われております。(がん登録・統計資料より)

※妊娠中(疑)の方はお受けできません。

<こんな方にオススメ>

- ・40歳以上の方
- ・喫煙者または過去に喫煙されていた方
- ・身近に喫煙者がいる方(受動喫煙)
- ・近親者にがんを患った人がいる方
- ・咳、痰、息切れなどの症状がある方

<料 金>

10,800円(税込)

3. 乳がん検診

<実施日等>

主に火曜日・木曜日

人数制限はございません。

<検査方法>

マンモグラフィー検査(X線)

<所要時間>

15分程度



<内容紹介>

乳がんとは乳房の中にある乳腺(乳管・腺房)に発生するがんであり、30歳代から50歳代の方がピークとなります。乳房専用X線装置によるマンモグラフィー検査は石灰化の検出感度が高く、しこりが触れる前にも有用な検査です。

現在日本人女性の12人に1人が乳がんにかかると言われており、月に1度の自己検診と最低2年に1度は乳がん検診を受けましょう。

加入されている保険証や年齢により撮影方向(1方向・2方向)が異なります。※妊娠中(疑)の方、授乳中の方、埋め込み型ペースメーカー、CVポート(リザーバー)を装着されている方、豊胸手術をされている方はお受けできません。

※自己検診などでしこりを感じた方は、外来受診をお勧めします。

<こんな方にオススメ>

- ・40歳以上の方

<料 金>

1方向撮影…4,860円(税込)

2方向撮影…5,940円(税込)



■ 問い合わせ先

JA 北海道厚生連

遠軽厚生病院健診センター

TEL: 0158-42-4101

～オプション検査のご案内～

当健診センターでは各種オプション検査を実施しております！

人間ドック受診の際は、是非、ご利用ください。

1. 脳ドック

<実施日等>

月曜日～金曜日

1日2～4名までの事前予約制となります。



<検査方法>

MR I 検査 (磁気共鳴断層撮影)

MR A 検査 (磁気共鳴血管撮影)

<所要時間>

15～20分程度

<内容紹介>

脳ドック検査とはMR (磁気共鳴) 装置を用いた画像診断により、無症状の脳梗塞や小さな脳梗塞、脳出血及び動脈瘤や動脈硬化などの脳疾患の有無を調べる検査です。

脳卒中は寝たきり原因の第1位であり死亡率の高い重大な病気です。高齢者に多く発症しておりますが、近年、若い年代にも増えております。特に高血圧や糖尿病、心疾患などの生活習慣病は脳卒中

の危険因子となっております。

※妊娠中 (疑) の方、ペースメーカーなど体内に医療機器・金属が入っている方はお受けできません。

※閉所恐怖症など狭いところが苦手な方、刺青やアートメイクを行っている方はお受けできない場合があります。

<こんな方にオススメ>

- ・40歳以上の方
- ・血圧、血糖、コレステロールが高めの方
- ・喫煙者の方
- ・近親者に脳卒中を患った人がいる方

<料 金>

19,400円 (税込)

2. 肺ドック

<実施日等>

月曜日～金曜日

1日4名までの事前予約制となります。

<検査方法>

CT検査 (X線)

喀痰細胞診検査

<所要時間>

5分程度

<内容紹介>

肺ドック検査とは胸部X線検査では見つけることが困難な小さな病変を発見することができるヘリカルCT検査と気管



住民公開講座のご案内

当院では、病気や治療方法・検査などについて分かりやすく知っていただくため、地域住民の皆さまに向けた住民公開講座を定期開催しております。

医師・看護師・医療技術職の当院スタッフが講師となり、毎回異なるテーマについて講演を行っております。

平成9年の初回以降回を重ね、現在までに延べ5,000名以上の皆さまにご参加いただいております。

申し込み不要、入場無料となっております。

お見舞いや外来受診で来院された際など、お気軽にご参加ください。

【今年度の開催内容（予定）】

回数	開催日時	講師	テーマ
第106回	平成30年6月7日（木） 16:00～	産婦人科石川雅嗣主任部長	地方の病院で安全なお産をするために
第107回	平成30年8月9日（木） 11:00～	山口麻琴認知症看護認定看護師	地域で支える認知症
第108回	平成30年11月8日（木） 13:30～（予定）	高瀬雅史診療部長（小児科）	テーマ未定
第109回	平成31年2月14日（木） 11:00～（予定）	健診センター保健師	テーマ未定 （人間ドック関連）

※日程・担当講師等は変更となる場合がございます。

※内容詳細は開催時期が近づきましたら、院内掲示・病院ホームページ・新聞折込等でお知らせしておりますので、ご確認ください。

遠軽厚生病院広報誌「にじ」の第18号を発刊いたしました。地域の皆様に、当院の医療活動を紹介させていただくことを目的とし、今後も号を重ねていく予定です。

当誌に関する御意見・御要望がございましたら、広報誌編集委員会まで御連絡いただけますよう、お願い申し上げます。

編集委員長・小児科主任部長 田 中 聰